

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

金とドルと円と

(金からみた通貨)

ご存知とは思いますが、“金”の価格が急上昇しています。その上昇の勢いは恐ろしいほどです。かつて私は「金は輝きを失ったか」と題したレポートを書いて送りました。2000年11月のことです。その頃、東京市場では金は1g1,000円を切っていました。今思えば、私のような者がそんなレポートを書いた時こそが絶好の買い時だった、ということなのかもしれません。

実際、東京市場の底値は1999年の1g917円でした。年間平均では2000年の1,014円でした。ですから、私は歴史的底値を付けた近辺でレポートを書いていたのです。以降、金は徐々に上昇し、2007年には一時3,000円を突破、今週には3,400円をつけるまで上昇しています。あの頃思い、考えたことが全て間違いだったとは思いませんが、やはり考え方を大きく修正しなければならないような気がしています。

金の上昇は、言葉を変えれば(見方を変えれば、と云ってもいいと思いますが)円やドル等通貨の下落です。1g、あるいは1ンス購入するには今まで以上に紙幣を支わなければなりません。そして、金を基準に見れば、通貨(紙や記号でできた負債性通貨)の価値低落が続いていると見ることができます。ドルで計算するとそれが一層明瞭となります。

米国が金交換停止に踏み切り世界にショックを与えたのは1971年でしたが、データの取れる1973年から今日に至るまでの金価格、円ドル推移を追ってみました(数値は年平均)。

	1トロイオンス/ドル	円/ドル(TTS)
1973年	97.22	269.25
1983年	424.35	238.53
1993年	359.78	112.21
1998年	294.19	131.93
2003年	363.58	117.00
2008年	872.17	104.57
09.11.18	1,142.00	88.90
09/73	11.7	0.33

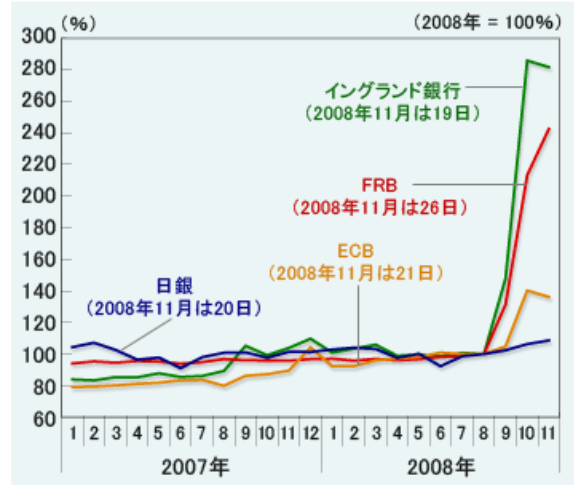
(08年迄のデータ出所：田中貴金属工業)

どうでしょうか。ドルの価値は円に対して約1/3となり、金に対しては約1/11に低下しています。とすれば、私は冒頭の言葉を訂正しなければなりません。“金”価格が急上昇しているのではなく、負債性通貨としてのドルの価値が急低下しているのだと。そして改めて問う必要があるような気がしています。紙や記号でできた負債性通貨の信用性、信頼性に揺らぎが生じているのではないかと。

勿論、私如きに解る筈もありませんし結論を出せる筈もありません。だからこれを読んでいる人は豊島の与太話として聞いて貰うしかありませんが、金に対する負債性通貨の下落は、一昨年来のサブプライムローン問題以降吹き上がり昨年発火した金融危機が背景にあるように見えるのです。今、世界の主要国は負債としての通貨を大增刷し、景気対策、金融危機対策として概算で500兆円程度供給している模様です。正に、政策を総動員して何とか経済の破綻を食い止めているのが現状でしょう。とすれば、供給した500兆円をどう回収するのでしょうか。出しっ放しの状態に陥る不安が過ぎります。

下表は、あるアナリストが作成した日米欧中央銀行のBS推移を表にしたものです。米欧は2.5倍に膨れ上がっています。「資産性通貨としての金」に紙幣が流れるのは自然です。尤も、件の例で云えば、今がピークかも知れませんが、.....。

■ リーマン破綻以降、急膨張を見せる中央銀行の資産



発信日：2009.11.21 第598号

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp